

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/
E-mail:gyoren@kagawa-
gyoren.or.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
TEL 087-825-0350
J F 香川漁連 FAX 087-851-0699

J F 全漁連

漁協運動功労者表彰

柳 生 忠

土庄中央漁業協同組合代表理事組合長



J F 全漁連は 11 月 21 日(金)平成 15 年度(第 18 回)漁協運動功労者表彰の式典と祝賀会を東京・虎ノ門パストラルで開催した。この漁協運動功労者表彰は、漁協系統運動の推進・発展に功労のあった者に対し、JF 全漁連が表彰しているもの

で、本県から柳生 忠氏(土庄中央漁業協同組合代表理事組合長)が受賞された。

柳生組合長は、昭和 26 年より漁業に従事して以来、現在に至るまで 52 年の長きにわたり漁業一筋に従事している。昭和 43 年に土庄漁協理事に就任、平成 2 年からは代表理事組合長として組合員の漁業の近代化を促進し、特に、組合の基幹漁業であるノリ養殖の技術並びに生産性の向上を図り、漁業の振興と組合員の漁業経営の安定に寄与された。また、卓越した識見と豊富な経験から平成 12 年には香川海区漁業調整委員に就任し、沉着冷静な判断をもって漁業調整に労を惜みず、さらに、平成 14 年には自らが働きかけた 5 漁協による合併を成功させ、漁協の基盤強化に大きく貢献されている。

第 24 回全国豊かな海づくり大会開催記念

「海を愛する子供たちの絵画・作文コンクール」
入賞作品の紹介

香川県議会議長賞 [小学校高学年の部]

「海に住んでいる生き物」

坂出市立西部小学校 4 年 新池 愛乃

夏はやっぱり海です。夏になればたくさんの人たちが海に集まってきます。子供たちは、真っ黒に日やけして遊んでいます。大人たちもいっしょにはしゃいでいます。

私は、夏になると、おじいちゃんやおばあちゃんの家に行く回数がふえます。私のおじいちゃんやおばあちゃんは、しゃみ島に住んでいます。いつもは、おじいちゃんは、川重という船を作る工場に通い、おばあちゃんはパン屋さんで働いています。でも、土曜日と日曜日はボランティアで海の家を開いています。そこで、おでんやうどん、かき氷などを作って売っています。

昼ごろになると、泳ぎにきている人が次々に食べに来るので、とてもにぎやかになります。かき氷もどんどん売れています。

私は、海の家のおでんが大好きです。海で食べるおでんの味は、家で食べるものとはくらべものにならないほどおいしいです。どうしてかなあ。きっと、海のきれいなけしきがおいしい味つけをしてきているんだと思います。

もう一つ私の大好きなものがあります。それは、おじいちゃんにつってきた魚です。

私のおじいちゃんは、つりが好きで仕事の休みの日は、よく魚をつりに行っています。私も時々つれていってもらいます。ボートに乗っておきに行くのは、とても気持ちがいいです。このひろい海の中にたくさんの種類の魚たちが住んでいます。どんな魚がつれるのかわくわくします。つれた魚の名前をおじいちゃんが、教えてくれました。

しお風にゆられておじいちゃんといっぱい魚をつりました。「メバル、チヌ、キス、タコ、ママカリ、カレイ」港に帰ると、おばあちゃんがバケツを持って待っていてくれます。「いっぱいつれたん。」「うん。いっぱいつれたよ。おさしみにして食べよう。」おばあちゃんとわいわい言いながら、家へ向かいました。家に帰って、おじいちゃんが魚を料理します。おじいちゃんの前は、しょうじょうをもらうほどなので、みんな楽しみに待っています。

家族みんなで食べる魚料理は、とてもおいしいし、家の中が明るくて、楽しくなります。

私のおじいちゃんやおばあちゃんが、海の近くに住んでいてくれてとってもよかったです。海からのおくり物をいっぱいもらうことができました。

これからも、もっともっとしゃみ島へ行きたいです。そして、お返しとしておばあちゃんたちといっしょに海のそうじをして、きれいな海を守っていきたいです。

香川県議会議長賞 [中学校の部]

「海の中の太陽」

高松市立光洋中学校 2 年 小西 彩加

青い空がゆれている。太陽がキラキラと眩しい。海に優しく包まれているようで、自分までやさしい気持ちになれる。私は幼い頃から、海の中から見る空が大好きだった。

祖父の家の近くには海があり、よく祖父と二人で遊びに行っていた。祖父は、だいたい浜辺に座っていて、海ではしゃぐ私を見守っていたり、母と祖母の作ったお弁当を持って行って、二人で食べたり、砂山をつくったりと、その海にはたくさんの二人の思い出がある。その思い出の中で祖父が、

「海は楽しいし、美味しいもんもようけくれて、むしろいろんなもんを与えてくれよるけど、反対にわしらは、平気で海にゴミをほったりして、海を汚しよるなあ。そんな海に失礼やる？おじいちゃんは悲しいわ。彩加は、そんな事をする人になったらいかんで。」

と言ったのを覚えている。確かにその海の浜辺には、いろいろなゴミが落ちていた。その日は二人で、ゴミを拾って帰った。何故人は、海や道路にゴミを捨てるのだろうか。家に帰ればゴミ箱もあるはずだし、公園などにもゴミ箱が設けられている。なのに何故？幼い頃の私には、それがわからなかった。でも、今はわかるような気がする。それが、人間の弱さなのだ。すぐに楽な方、楽な方へと逃げてしまう弱い心。そんな、私たち人間の醜い心が、海を汚しているのだ。しかし私は、強い心の持ち主もいるということを、別の海で知ることができた。その女性は、暑い中、大きなゴミ袋を持ってせっせとゴミ拾いをしていました。私には、その人がとても輝いて見えた。こんな、美しい心の持ち主もいるんだと思い、気がつくとも私は、その女性の手伝いをしていました。ゴミ袋がいっぱいになると、なんだかとてもすがすがしい気持ちになり、自然と笑顔になることができた。

日本中の人々が、2億4千万本の手でゴミを拾うと、日本中の海がきれいになると思う。ゴミは海を汚すためにあるのではない。私たちの生活が便利になるために、仕方なく生まれたものなのである。それを

正しく処理しなければ、いくら生活が便利になったとしても無意味だと思う。祖父の言うように、海に「恩を仇で返す」ことがあたりまえにならないよう、私は海に行ったときには、持てるだけのゴミを拾って帰るようにしている。一人でも多くの人が、一つでも多くのゴミを拾ってくれることを願いながら。私たちが、自然の中の一員ということを実感し、海に平気でゴミを捨てる弱い心を改めると、初めて本当の楽しい海の思い出を作ることができると思う。そんな美しい心の人達がきれいにした、海の中から見る空は、きっとどんな空よりも素晴らしいことだろう。

「仁尾の海」

三野町立三野津中学校 3 年 藤岡 由貴子



高松市長賞 [小学校低学年の部]

「大好きな海の魚」

高松市立築地小学校 3 年 高城 愛貴

私は学校でクサフグ、ヒラメ、タケノコメバル。オコゼの世話をしています。

私の育てている魚は食いしんぼうです。エサをもってくるとすぐによってきます。タケノコメバルは、はじめ水そうに入って来たときは、おびえていたように、エサも、二日間くらい食べませんでした。でも、今は、フグにまけずバクバクと食べています。だから毎日のエサも、たくさんあげなければ、いけなくなりました。

ヒラメは、ゆっくりしているので、クサフグやタケノコメバルにエサをよこどりされています。でも、

ヒラメは、おちているエサを一口で食べます。フグが、かじりつかないと食べれない大きさなのに、一口で、パクリと食べます。ヒラメはとても平たいし、口もそんなに大きくありません。でも、ヒラメの口の形は、とってもおもしろいです。ヒラメの口は、すこしゆがんでいます。でも、フグの口はゆがんでいないので、かわいいです。もちろんヒラメも大好きです。

それから、ヒレのちがいをみつけました。フグのひれは、くらべた中できれいだと思いました。なぜかというと、ヒレの先が黄色で、とってもすてきでした。タケノコメバルのヒレの形は、マダイとくらべて丸いです。オビレはギザギザしています。ヒラメのヒレは、すなの色ににているので、ぺちゃんこで少しギザギザしています。

なかでも、オコゼのヒレにはビックリしました。オコゼは、魚なのにおよがないで歩きます。私は、魚のヒレは、いろいろな形や、色があっておもしろいと思いました。

私は、魚の世話をしている、ますます魚がすきになりました。つらいときは、フグたちをながめているだけで、元気になれます。

だから、そんな魚たちがいる海がきれいになって、魚たちがくらしやすい海にして魚たちを守りたいです。

高松市長賞 [小学校高学年の部]

「海からのおくり物」

高松市立屋島西小学校 6 年 丸山 開世

ぼくのおばあちゃんは、近所の人を話すときに、名字を使わずに船の名前を使うことがあります。「大黒丸のすーちゃんが・・・。」とか、「ばんじん丸のおばあさんが・・・。」と言います。しかし、今の漁港には大黒丸やばんじん丸という船はありません。ぼくは、不思議に思ったので、おばあちゃんにたずねてみました。

ぼくの住んでいる浦生には、今から 30 年ほど前まで大黒丸やばんじん丸のような「塩船」が何せきもあったそうです。ぼくのひいおじいちゃんは、大正から昭和のはじめの頃まで「金子丸」という塩船に乗っていました。金子丸で、九州や大阪まで塩を運んでいたそうです。金子丸は、風の力で進むはん船だったので何日もかかったということです。ぼくは、そんな船を見たことはないけれど、そんな船に乗って何日もかけて瀬戸内海を見ながら九州や大阪に行きたいです。

ぼくが 4 年生のときに、総合学習で「わたしたちの町」を調べました。現在の屋島西町はマンションやアパートが次々と立ち並ぶ住宅地です。しかし、そこは昔とても広い塩田地帯だったことがわかりました。ぼくの通う小学校は、かつて塩田だった所に建っています。小学校の玄関には、流下式塩田の模型があります。竹の枝などをいくつもの段に組んだやぐらを見ていると、こんなやぐらが町一面に広がっていたんだと想像できます。

今からおよそ 250 年前、屋島の西側に広がる遠浅の海が、梶原景山たちの苦勞によって塩田になりました。昭和 47 年に閉ざされるまでの約 220 年もの長い間、塩田は人々の暮らしを支えました。それは、塩田浜しと呼ばれる塩田で働いていた人々だけでなく生産された塩を船で運んでいたぼくのひいおじいちゃんたち船乗りの人も生活を支えられていました。ぼくは、小さい頃から家族で潮干狩りやてん草とりに行っていました。海には、地元の人しか知らない食べ物がたくさんあります。例えば「おご」という海草は、酢のものにできます。また、おご豆腐にもなります。ダメ貝やニシ貝もとれて、とてもおいしいです。

今、浦生には、魚の養しよくをしている水産会社があります。また、のりやかきの養しよくをしている会社もあります。みんな海の恵を受けて生活しています。昔も今も、人々は海からさまざまなおくり物をもたらしているんだと思いました。

ぼくは、これからも海を大切にしていきたいと思えます。海と仲良しになることや、海からのおくり物について語りついでいくことが、ぼくにできる第一歩だと思います。たくさんの生き物たちがこの美しい海で、いつまでも生きてほしいと心から願っています。

主な行事予定 (12/1 ~ 1/5)

- 12月 3日(水) 第1回乾海苔共販
- 5日(金) 16年度県予算要望
- 10日(水) 5ブロック会長会議
- 13日(土) 第2回乾海苔共販
- 24日(水) 第3回 "
- 25日(木) 理事会
- 27日(土) 仕事納め

平成 16 年

1月 5日(月) 仕事始め